

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUHPS分科会(DLMPS) 更新日 2012/1/5  
(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際科学史・科学基礎論連合：科学基礎論部門

(欧文) International Union of the History and Philosophy of Science/Division of Logic, Methodology and Philosophy of Science

(略称) IUHPS/DLMPS

日本学術会議加入年(西暦) 1950 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Council

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Elliott SOBER		Maria Carla Galavotti, Cliff Hooker	Peter Schroeder-Heister
(国)	USA		Italy, Australia	Germany

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

4年ごとに選出するが、候補選定委員会が提示した候補者と総会で各国が推薦した候補者を合わせて、その中から総会で選挙。なお、候補選定委員会には、各国は候補者を推薦することが出来る。

加入国・地域の数 41 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

英、米、仏、独、スペイン、日本、中国、カナダ、メキシコ、オーストラリア、イスラエル

国際学術団体のホームページURL <http://www.wilfridhodes.co.uk/dlmps/index.html>

国際学術団体の年間運営経費 4300Euro

日本の分担予定額[事務局で記入] 97千円(2012年度)

## 国際学術団体の活動状況

### 総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/協賛 の有無
2011	14th International Congress of Logic, Methodology, and Philosophy of Science	ナンシー(フランス)	770	19	無
2007	13th International Congress of Logic, Methodology, and Philosophy of Science	北京市	500	20	無
2003	12th International Congress of Logic, Methodology, and Philosophy of Science	オビエド市(スペイン)	600	15	無

### 運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	総会(General Assembly)	ナンシー		飯田 隆	1
2007	総会(General Assembly)	北京		飯田 隆	1
2003	理事会	オビエド		無し	0

### 出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

国際会議の Proceedings が、数分冊で出版される。

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;"><b>国際機関等の提唱で行った活動</b></p> <p>4年毎のCongress開催が、本団体の主要活動である。</p> <p>姉妹組織であるDHSTとの連携を強化するために、Inter-divisional commission を設けることが正式に決定され、科学哲学および科学史教育のためのcommissionが設置された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際機関等への提言等</b></p> <p>2002年にリオデジャネイロで開催されたICUの総会において、ICSUからの資金援助の新方針に関して、少額であっても援助が必要が多いことを指摘し、方針の再考を求めた。</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際事業等への参加・実施等</b></p> <p>本学会の2nd Vice President を勤めた Deborah Mayo は、ICSU の Ad Hoc Review Committee on the Responsibilities of Science and Society のメンバーに任命されている。</p>
<p style="text-align: center;"><b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b></p> <p>過去2回のCongress において、Science and Soceity 部門の研究発表が目立って増加していることからわかるように、科学と社会の関係についての基礎研究への取組みが盛んである。このことは、DLMPSの現在の名称を「科学技術 Technology」への言及を含む名称に変更する可能性が検討されていることにもよく表れている。</p>
<p style="text-align: center;"><b>発展途上国への対応</b></p> <p>アジア・アフリカへの研究協力は積極的にすすめられ、2007年の13回目の国際会議は、アジア地区最初として北京で開催され、大きな成功を収めた。2011年のナンシーでの会議ではアフリカ諸国からの参加者も増えた。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>アジアでの初めての会議開催(2007年)、また、ソウルでの世界哲学会議 World Congress of Philosophy 開催(2008年)と、アジアの研究者どうしの交流をすすめることは、これからのわが国の科学基礎論・科学哲学の展開にとって重要な課題である。2012年10月にはソウルで科学史科学哲学の教育についてのアジア地域の会議が開催されるので、現在それに向けての取組みを行っている。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
assessor	八杉真理子	2011	2015
vice president	内井惣七	2007	2011
assessor	西脇与作	2003	2007
assessor	内井惣七	1999	2003
assessor	野本和幸	1995	1999

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUHPS分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

特になし。

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
科学基礎論学会	450	<a href="http://phsc.jp/">http://phsc.jp/</a>
日本科学哲学会	500	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/pssj/">http://wwwsoc.nii.ac.jp/pssj/</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUHPS分科会  
 所属分野別委員会 史学委員会

### 分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
木本忠昭	矢野道雄	横山輝雄	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
0	4	4

### 分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

DLMPSへの対応は従来、科学基礎論研究連絡委員会が行っていたが、学術会議の再編に伴いこの委員会が廃止されたため、史学分野に属するIUHPS分会を通じて行っている。国際的にDLMPSによって代表される科学基礎論の分野のわが国での認知度を高めることを目標にするとともに、国際的な交流の活性化を目指している。

### 今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2009/5/23	代表派遣を橋本毅彦、矢島道子の両名を事後承認した。総会での表決権行使者として、木本、橋本、溝口、矢島、小川の5名とした。総会への報告書、分担金への対応については委員の意見を委員長がまとめ提出することとした。
2008/12/19	(1) 国際組織役員推薦の件：矢野道雄をアセッサーに推薦することとした、(2) 代表派遣の件：木本忠昭を決定、なお適任者を推薦する(3) 報告書作成の件：ブタペスト会議に提出することとした、(4) 今後の対応：科学史学会と連携して対応することとした、(5) その他：国際会議後、報告書を作成することとした

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

科学基礎論学会の総会、理事会などにおける報告、および、機関誌『科学基礎論研究』を通じて、IUHPS/DLMPSの活動を定期的に報告している。2011年7月にナンシー（フランス）で開催される第14回国際会議への参加を科学基礎論学会HP等で呼びかけている。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

わが国における科学基礎論分野の研究者は、科学基礎論学会と日本科学哲学会の他、数学、物理、生物などの各分野にも存在する。科学基礎論学会が中心となり、日本科学哲学会とも連携しながら、国際会議での若手研究者の発表支援などに取り組んでいる。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

(1) DHSTとDLMPS の連携については、本委員会だけでは対応できない問題であるので、両国再組織での検討にまわっている (2) 国内への連絡先の記述の仕方については、委員会の理解と指摘が必ずしも正当とは思えない点もあるが、是正を申し入れることとした。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

(1) 国際組織への対応:ここ10年、国際組織へは役員としてassessor を継続的に送り出してきた。また、今期は内井惣七氏が副会長を務めている。(2) 4年ごとの国際会議についても、日本からの発表者、とくに若手の発表者が増えていることは評価できる。(3) 国内での対応体制については、国際会議の動向について、理事会および総会での報告を通じて、現状を知らせる努力をしてきた。